

リユース業者の環境意識高度化事業
消費者・大口排出者がリユース業界に求める要件
(アンケート調査結果の報告)

1. 事業の概要

(1) 事業の概要・狙い

リユースの推進に当たっては、市町村や消費者、事業者が安心して取引できる高度な環境意識を持つ事業者を増やすことが必要と考えられる。

このため、環境保全、品質保証、トレーサビリティ確保及びコンプライアンスの観点を含め、利用者が求める要件をアンケート調査やヒアリングより把握するとともに、リユース業界における優良事業者支援の実態及び更なる促進策について検討する。

(2) 調査内容

各リユース業界団体（JRCA、JRO、JRAA）においては、会員企業を対象とした優良事業者支援策を実施している。それぞれ法令遵守、品質管理・保証、トレーサビリティの確保といった観点で取組を進めているところである。

使用済製品の排出者として（また中古品の利用者としても）関与する一般消費者、大口排出事業者（リース業、引越業、ビル管理業）、市町村に対してアンケート・ヒアリングを行い、リユース業界に求める要件を把握・整理する。

本資料では、一般消費者アンケート、大口排出事業者アンケートの結果を報告する。（詳細は参考資料5、6を参照。）

図表 1 リユース業者の環境意識高度化に向けた調査の取りまとめの方向性

ユーザー	リユースの現状	リユース業界への要望 (例)
一般消費者	<ul style="list-style-type: none"> 費用（購入／引渡いずれも）の観点を重視 保証・サポートに不安、他者が使用したものは使いたくない、近くに店舗がない、などの意見も挙げられている。 	<ul style="list-style-type: none"> 購入後の保証・サポート 優良店の紹介サービス 法令遵守・コンプライアンス
大口排出事業者 ※リース・レンタル、引越、ビル管理など	<ul style="list-style-type: none"> 顧客・サービス利用者が一次的な排出者、発生場所が広域の可能性あり 一部の事業者においては、リユース業者と連携が進む 	<ul style="list-style-type: none"> 引渡後のトレーサビリティの確保 リファービッシュやリメイクを行える
市町村	<ul style="list-style-type: none"> 単独でのリユース推進とリユース業者と連携のパターンあり。品目別に実施、排出者の意向確認、修理、リユースの見極めなどが課題 	<ul style="list-style-type: none"> 広域で得られる共通サービス <p style="text-align: right;">／など</p>

2. アンケート調査結果の概要

2.1 消費者アンケート調査

2.1.1 消費者アンケート調査の概要

使用済製品の排出者とも購入者ともなりうる消費者に対して、リユース業界・事業者への要望やイメージなどを整理することを目的として、アンケート調査を実施した。

調査はインターネットモニターを対象として、中古品購入経験の有無と不用品の引渡経験の有無を把握する事前調査を行った。その上で、中古品の購入経験と不用品の引渡経験の両方ある方を対象に、リユース業界・事業者への要望やイメージなどを把握する本調査の2段階に分けて実施した。本調査の対象者抽出にあたって、リユースショップでの購入経験のある方・ない方、リユースショップでの引渡経験のある方・ない方がそれぞれ250サンプル以上は把握できるようにスクリーニングを行った

調査数は事前調査が9,420名、本調査が1,000名であった。

2.1.2 消費者アンケート調査結果の概要

(1) 事前調査の結果

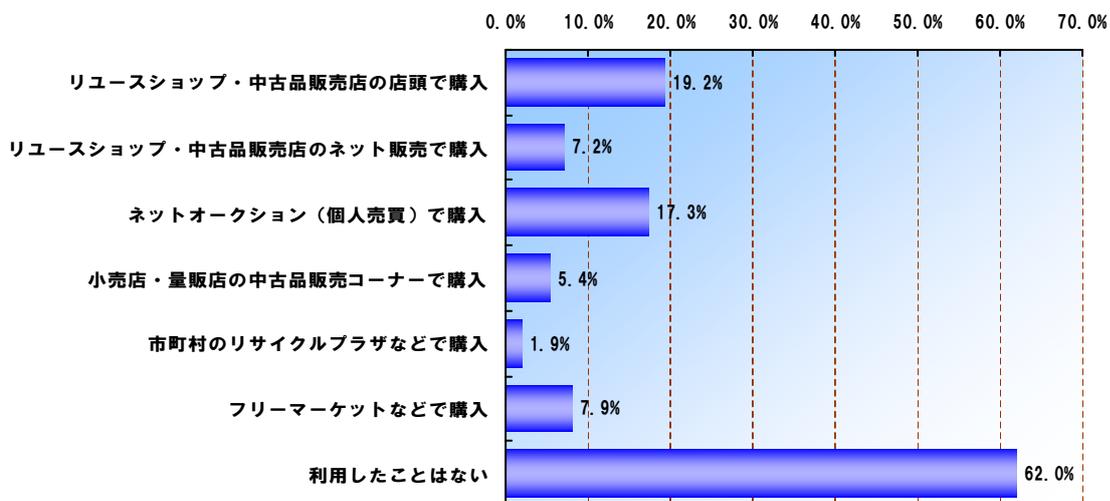
1) 中古品の購入の経験とその手段について（過去1年間）

中古品の購入の経験について、「利用したことはない」との回答が最も多く62.0%（5,838件）、次いで「リユースショップの店頭」との回答が19.2%（1,809件）、「ネットオークション（個人売買）」との回答が17.3%（1,631件）と続く。

回答者の4割近くは、なんらかの手段で過去1年間に中古品を購入しており、リユースショップ（店頭・ネット）が最も多く、ネットオークション（個人売買）が続く。

図表 2 中古品の購入の経験とその手段（過去1年間）（複数回答）

(n=9420)

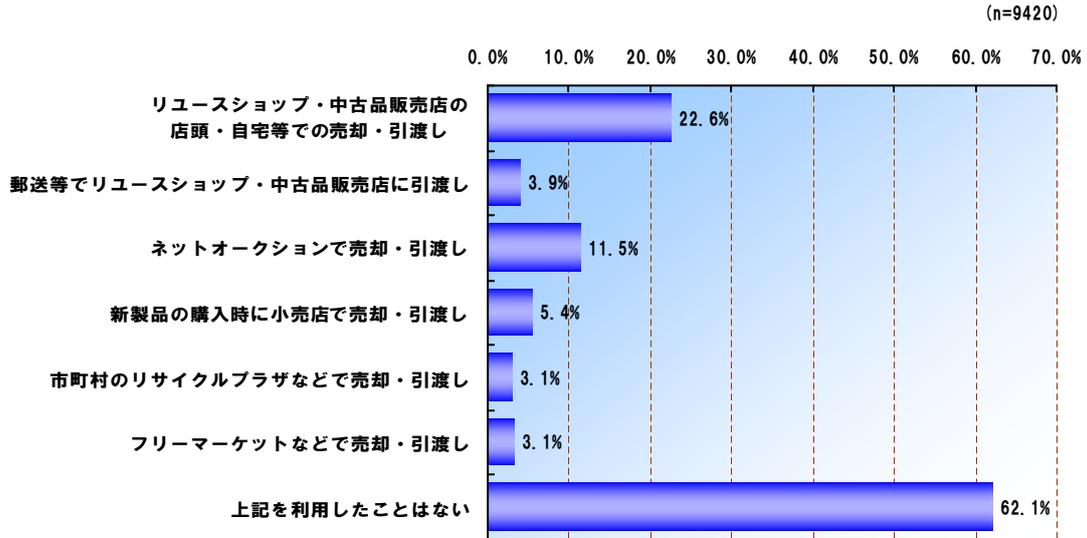


2) 不用品の売却・引渡しを経験とその手段について（過去1年間）

不用品の売却・引渡しを経験について、「利用したことはない」との回答が最も多く 62.1% (5,848 件)、次いで「リユースショップの店頭で売却・引渡し」との回答が 22.6% (2,126 件)、「ネットオークションで売却・引渡し」との回答が 11.5% (1,080 件) と続く。

回答者の 4 割近くは、なんらか手段で過去 1 年間に不用品を売却・引渡ししており、リユースショップの利用（店頭・自宅、郵送等）との回答が最も多い。

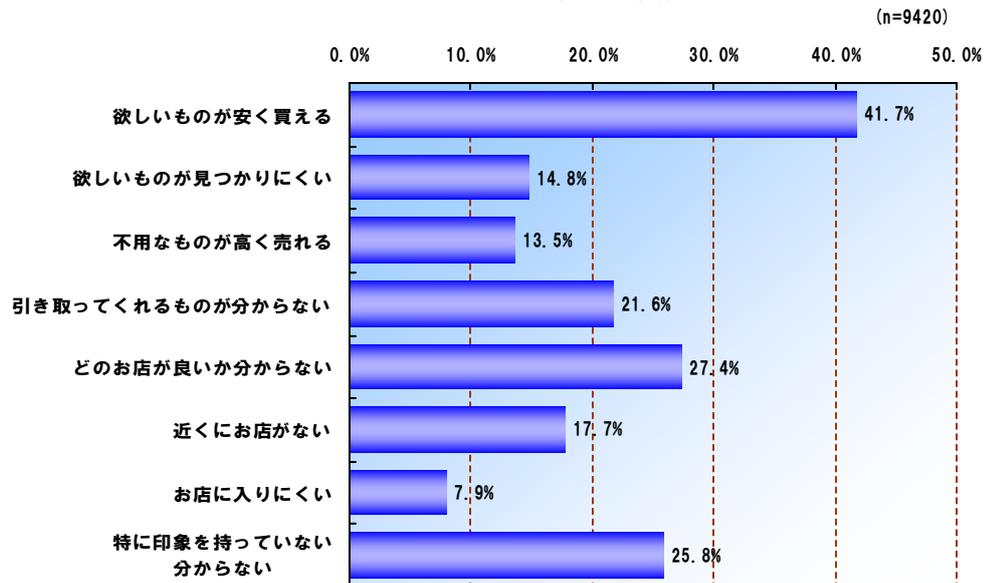
図表 3 不用品の売却・引渡しを経験とその手段（過去1年間）（複数回答）



3) リユースショップに対する印象について

リユースショップに対する印象について、「欲しいものが安く買える」との回答が最も多く 41.7% (3,926 件)、次いで「どのお店が良いか分からない」との回答が 27.4% (2,579 件)、「特に印象を持っていない」との回答が 25.8% (2,431 件) と続く。

図表 4 リユースショップに対する印象（複数回答）



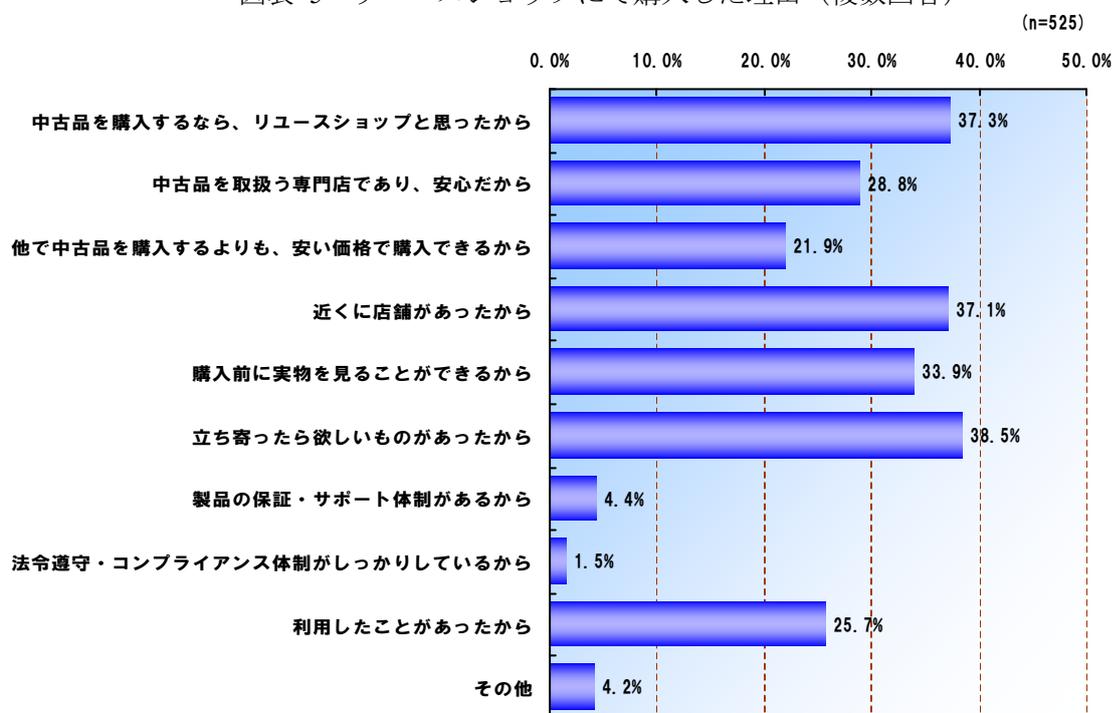
(2) 本調査の結果（中古品の購入、不用品の引渡し経験の両方がある方対象）

1) リユースショップにて購入した理由、購入しなかった理由

リユースショップにて購入した理由について、「立ち寄ったら欲しいものがあったから」との回答が最も多く 38.5% (202 件)、次いで「中古品を購入するなら、リユースショップと思ったから」との回答が 37.3% (196 件)、「近くに店舗があったから」との回答が 37.1% (195 件)、「購入前に実物を見ることができるから」との回答が 33.9% (178 件) と続く。

欲しいものがあってリユースショップを訪れるのではなく「立ち寄ったら欲しいものがあった」との回答が他と比較して高く（回答者の 4 割弱）、また「中古品購入はリユースショップで」という理由も上位となっている。

図表 5 リユースショップにて購入した理由（複数回答）



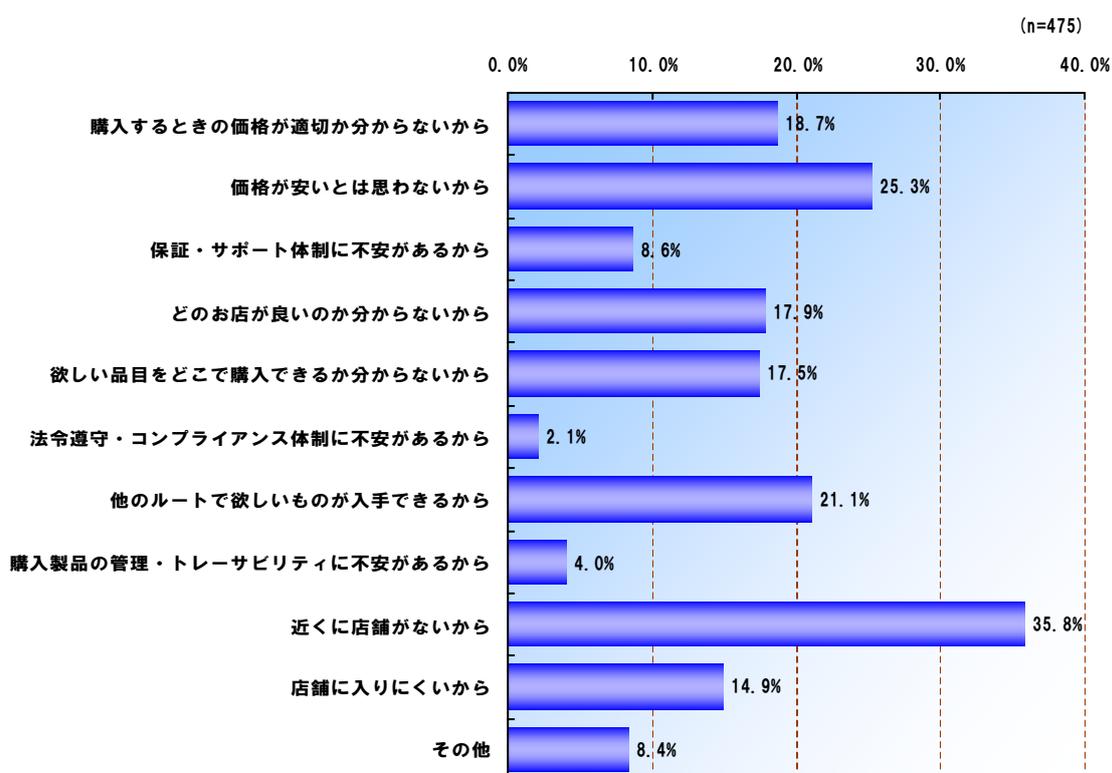
※リユースショップでの中古品購入したことがある回答者（n=525）の結果

リユースショップで購入しなかった理由について、「近くに店舗がないから」との回答が最も多く 35.8% (170 件)、次いで「価格が安いとは思わないから」との回答が 25.3% (120 件)、「他のルートで欲しいものが入手できるから」が 21.1% (100 件)、「購入するときの価格が適切か分からないから」が 18.7% (89 件) と続く。

「近くに店舗がないから」という回答以外では、価格に対する意見が上位に挙げられている。また、どのお店が良いのか分からない、欲しい品目をどこで購入できるか分からない、といった回答もそれぞれ 18% 程度挙げられている。

購入した理由に「立ち寄ったら欲しいものがあつた」との回答がある一方で、購入しない理由として「店舗に入りにくいから」との回答が 15% 程度挙げられている。

図表 6 リユースショップで購入しなかった理由 (複数回答)



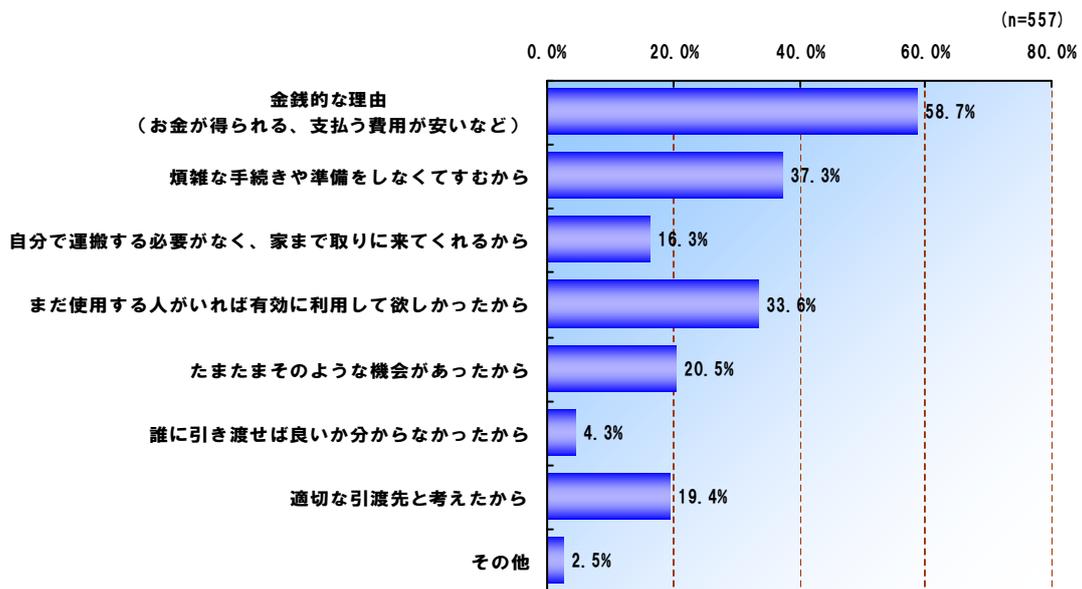
※リユースショップでの中古品購入をせず、他で中古品を購入した回答者 (n=475) の結果

2) リユースショップで売却・引渡をした理由、しなかった理由

リユースショップで売却・引渡をした理由について、「金銭的な理由(お金が得られる、支払う費用が安いなど)」との回答が最も多く 58.7% (327 件)、次いで「煩雑な手続きや準備をしなくてすむから」との回答が 37.3% (208 件)、「まだ使用する人がいれば有効に利用して欲しかったから」との回答が 33.6% (187 件) と続く。

金銭的な理由以外では、煩雑な手続き・準備が不用、自分で運搬する必要がなく取りに来てくれるからと、自らの手間を軽減できることが重視されている。また、「有効に利用して欲しかったから」との理由も全体の 1/3 程度で挙げられている。

図表 7 リユースショップで売却・引渡をした理由 (複数回答)



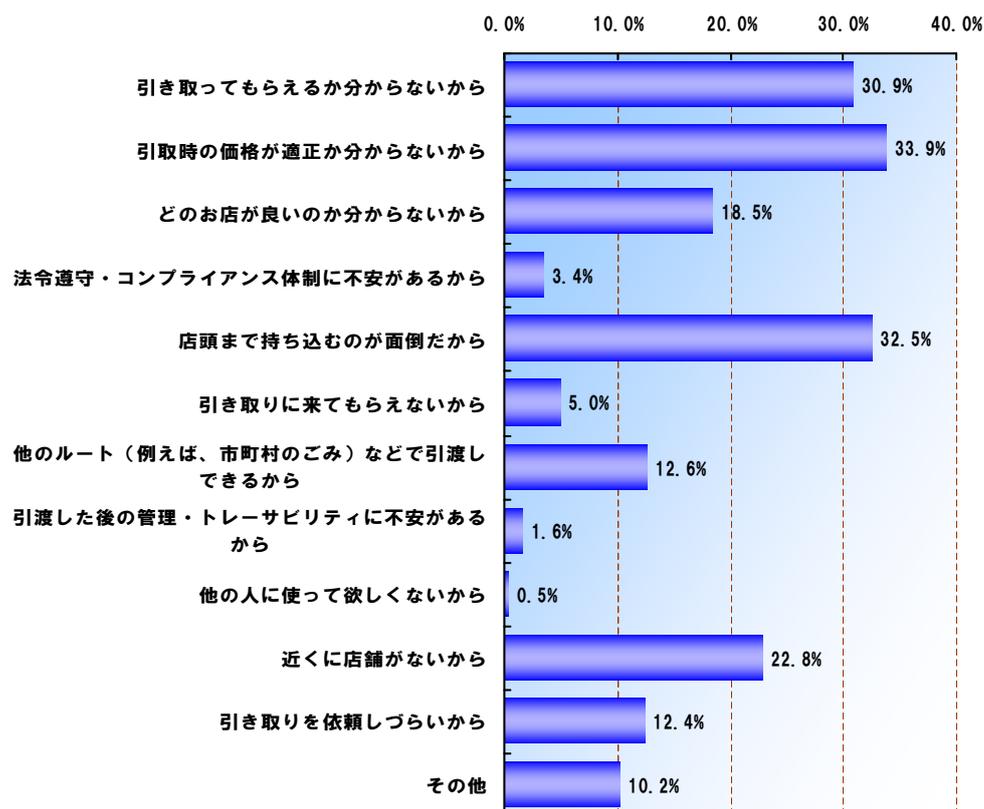
※リユースショップでの不用品の売却・引渡をした回答者 (n=557) の結果

リユースショップで売却・引渡をしなかった理由について、「引取時の価格が適正か分からないから」との回答が最も多く 33.9% (150 件)、次いで「店頭まで持ち込むのが面倒だから」との回答が 32.5% (144 件)、「引き取ってもらえるか分からないから」との回答が 30.9% (137 件) と続く。

引取時の価格の次に、店頭まで持ち込むのが面倒という回答が挙げられており、自らの手間に関する回答が上位になっている。

図表 8 リユースショップで売却・引渡をしなかった理由 (複数回答)

(n=443)



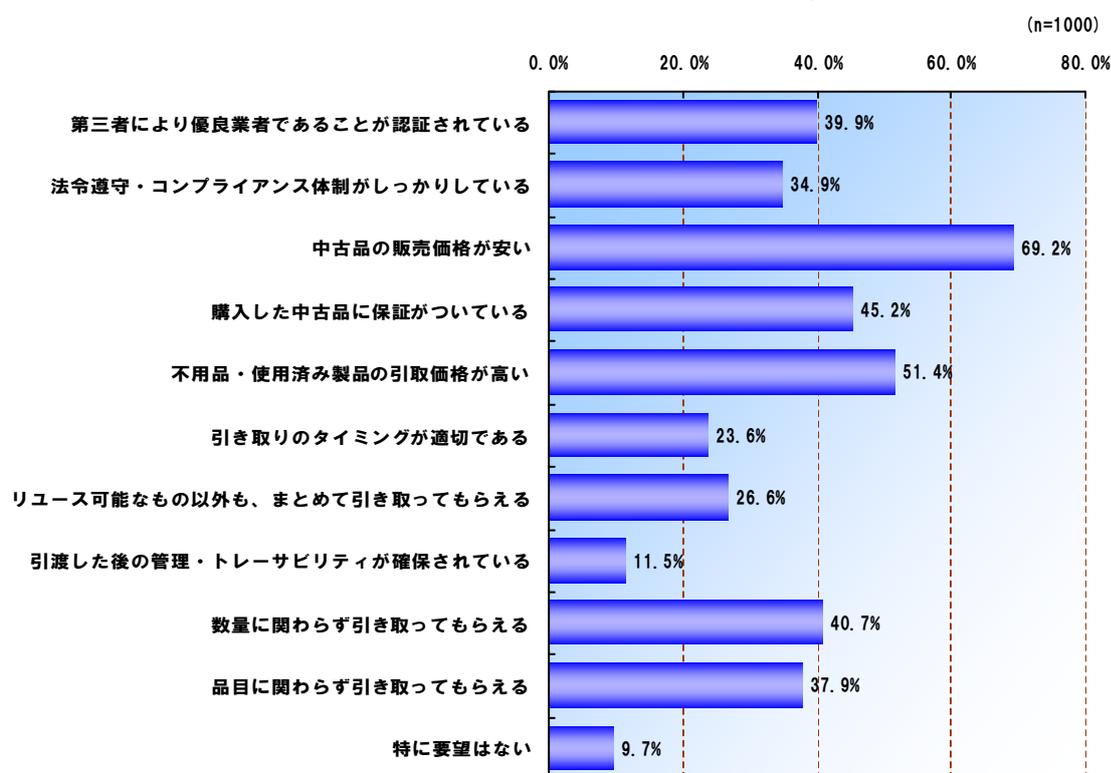
※リユースショップでの不用品の売却・引渡をせず、他で売却・引渡しをした回答者 (n=443) の結果

3) リユースショップに求める要件

リユースショップに求める要件について、「中古品の販売価格が安い」との回答が最も多く69.2%（692件）、次いで「不用品・使用済み製品の引取価格が高い」が51.4%（514件）、「購入した中古品に保証がついている」が45.2%（452件）、「数量に関わらず引き取ってもらえる」が40.7%（407件）、「第三者による優良事業者の認証」が39.9%（399件）と続く。

購入・引渡時の価格に対する意見以外では、第三者による優良事業者の認定、法令遵守・コンプライアンス体制の整備、引取時のサービス（数量、品目、タイミング）の充実、購入した製品への保証といった意見が多くなっている。

図表 9 リユースショップに求める要件（複数回答）



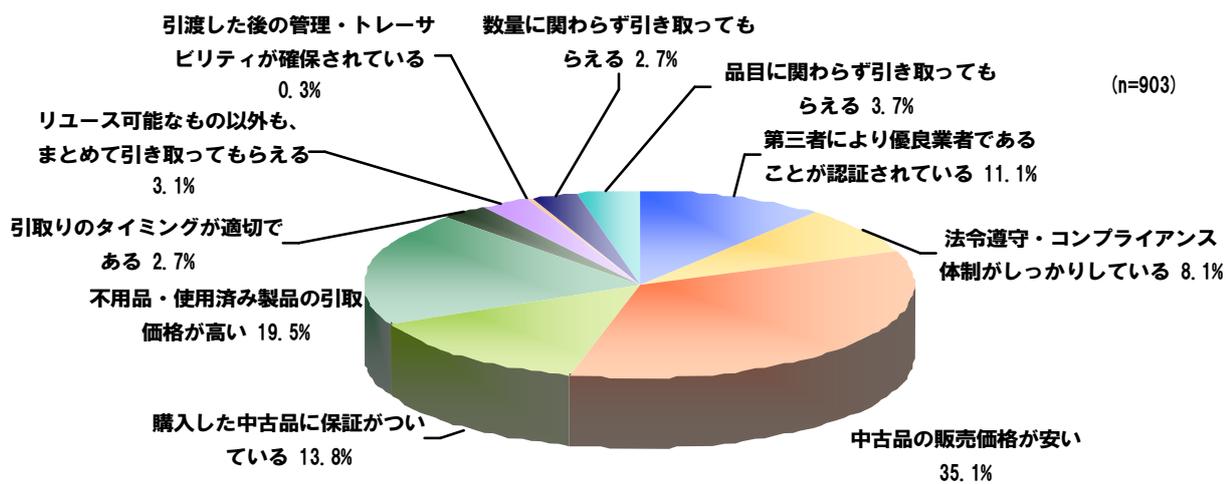
図表 10 リユースショップに求める要件（リユースショップでの購入経験有無で集計）

	合計	優良業者の認証	法令順守等の徹底	価格が安い	保証がついてくる	引取価格が高い	引取のタイミングが適切	まとめての引取	引渡後の管理の徹底	数量に関係なく引取可能	品目に関係なく引取可能	特に要望はない
合計	1000	399	349	692	452	514	236	266	115	407	379	97
	100%	39.9%	34.9%	69.2%	45.2%	51.4%	23.6%	26.6%	11.5%	40.7%	37.9%	9.7%
購入経験あり	467	170	160	360	213	251	80	131	41	200	174	31
	100%	36.4%	34.3%	77.1%	45.6%	53.7%	17.1%	28.1%	8.8%	42.8%	37.3%	6.6%
購入経験なし	533	229	189	332	239	263	156	135	74	207	205	66
	100%	43.0%	35.5%	62.3%	44.8%	49.3%	29.3%	25.3%	13.9%	38.8%	38.5%	12.4%

図表 9において回答したリユースショップに求める要件のうち、最も重視する点については、「中古の販売価格が安い」との回答が最も多く 35.1% (317 件)、次いで「不用品・使用済み製品の引取価格が高い」との回答が 19.5% (176 件)、「購入した中古品に保証がついている」との回答が 13.8% (125 件) と続く。

価格以外にも、中古品への保証、第三者による優良事業者の認証、法令遵守・コンプライアンス体制などを最も重視するといった回答もそれぞれ 1 割程度挙げられている。

図表 11 リユースショップに求める要件のうち、最も重視する点



※図表 9の設問において「特に要望はない」(n=97) との回答以外の結果

2.2 大口排出事業者アンケート調査

2.2.1 大口排出事業者へのアンケート調査の概要

使用済製品の排出者となりうる事業者に対してアンケート調査を実施し、リユース業界・事業者への要望・連携時に求める要件を整理する。

対象業種は、使用済製品を大口排出者となりうると考えられる、リース・レンタル業、引越業、ビル管理業の3業種とした。

図表 12 大口排出者向けのアンケートの回答状況

	発送数 (A)	無効 (B)	有効発送数 (C) (=A-B)	回収数 (D)	回収率 (E) (=D/C)
①リース・レンタル業	468	5	463	138	29.8%
②引越業	472	7	465	73	15.7%
③ビル管理業	450	0	450	145	32.2%

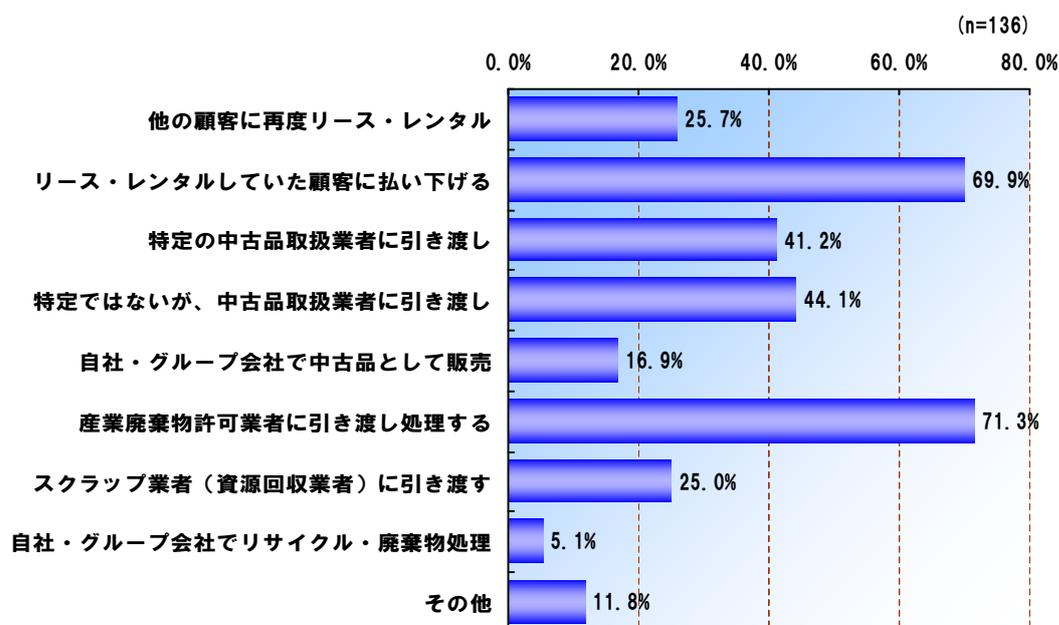
2.2.2 大口排出事業者へのアンケート調査結果の概要

(1) リース・レンタル業向けアンケート調査（結果概要）

リースアップ品・レンタルバック品の処理・処分方法について、「産業廃棄物許可業者に引渡し」との回答が最も多く71.3%（97件）、次いで「顧客に払い下げる」が69.9%（95件）と続く。

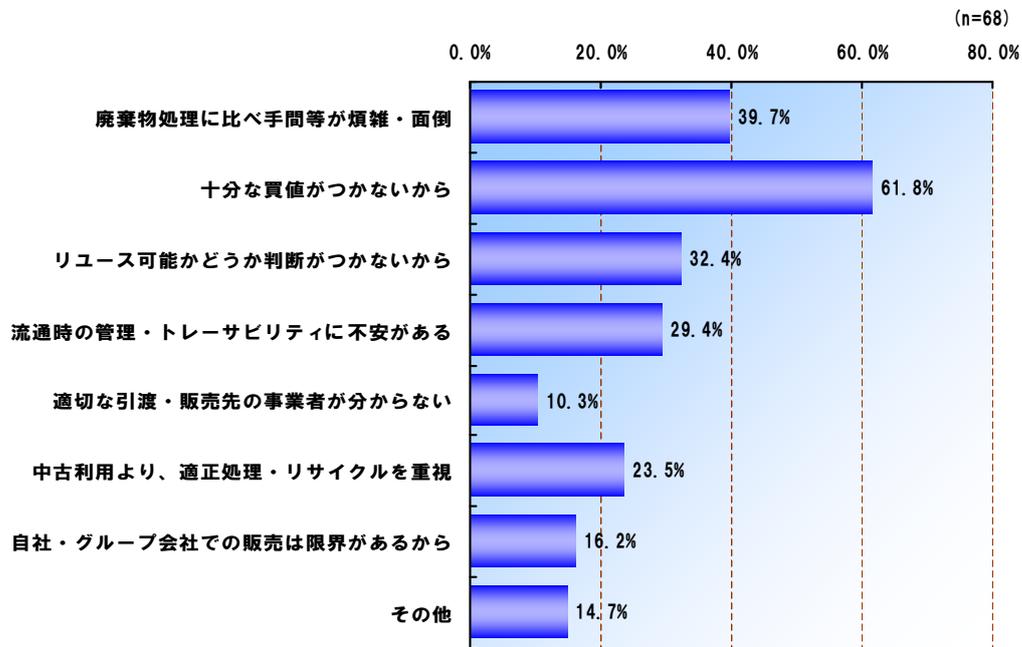
特定・特定でないに関わらず、それぞれ4割強がリユース業者に引渡しを行っている。

図表 13 リースアップ品等の引取後の処分状況（リース・レンタル業）（複数回答）



中古品として流通していない理由について、「十分な買値が見つからないから」との回答が最も多く 61.8% (42 件)、次いで「廃棄物処理に比べ手間等が煩雑・面倒」が 39.7% (27 件)、「リユース可能かどうか判断が見つからないから」が 32.4% (22 件) と続く。

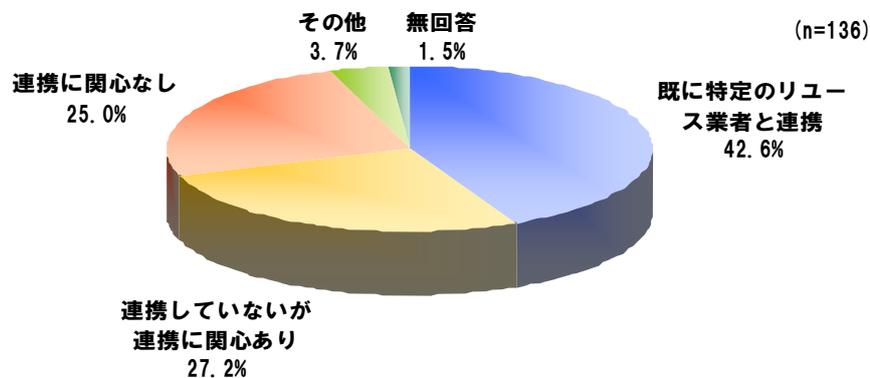
図表 14 中古品として流通していない理由について (リース・レンタル業) (複数回答)



※現状、リサイクル・廃棄物として処理されている製品のうち「まだ中古品利用できるものが存在する」との回答者 (68 件) への設問

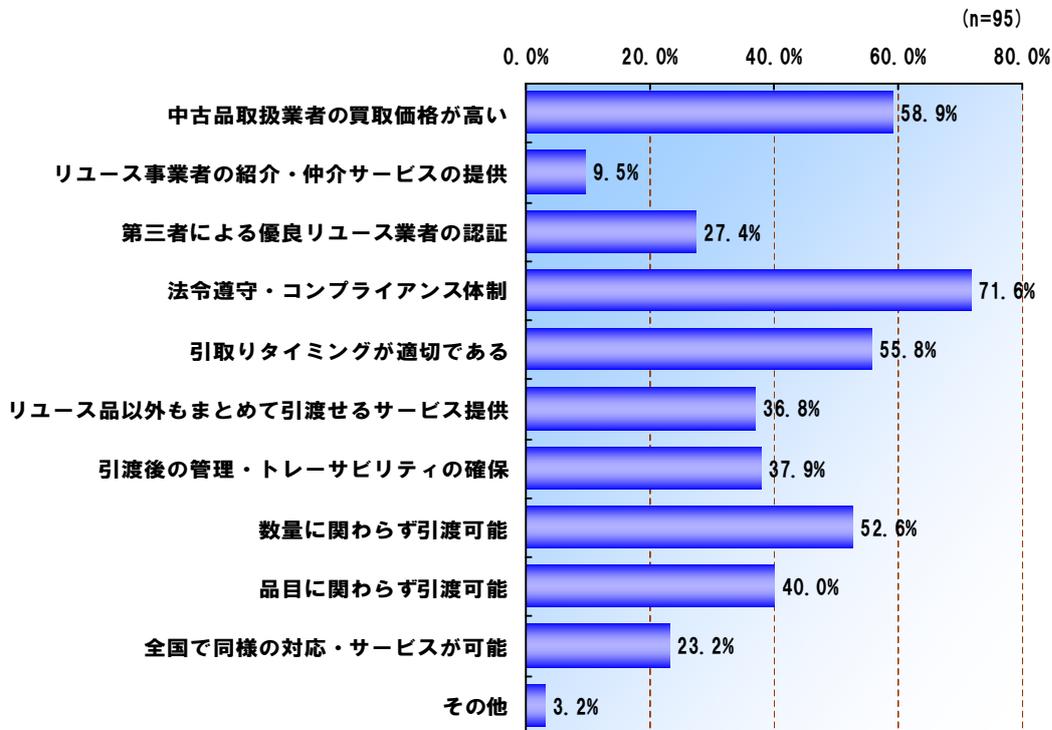
リースアップ品・レンタルバック品の利活用に向けたリユース業者との連携状況について、「既に特定のリユース業と連携」との回答が 42.6% (58 件)、「連携していないが、連携に関心あり」が 27.2% (37 件)、「連携に関心なし」が 25.0% (34 件) となっている。

図表 15 リユース業との連携状況 (リース・レンタル業)



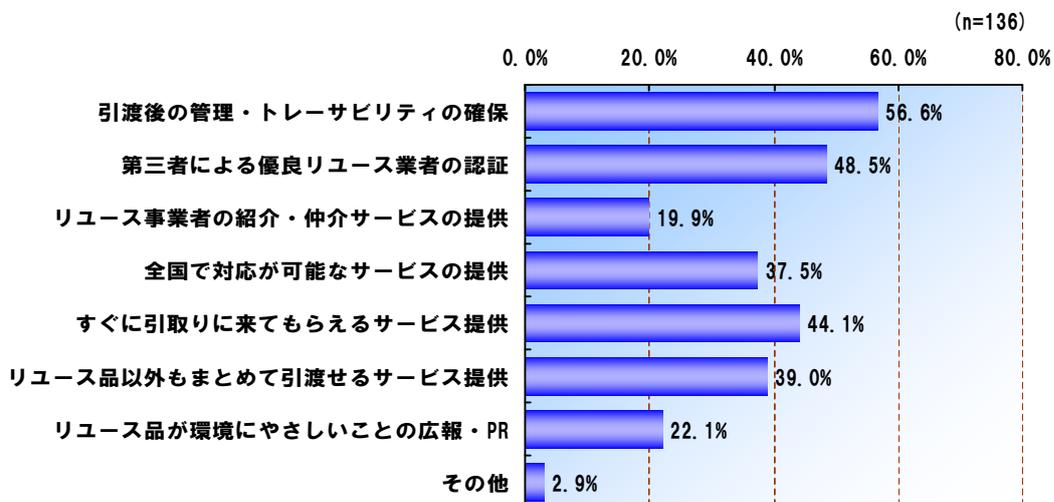
連携先の選定基準について、「法令遵守・コンプライアンス体制」との回答が最も多く 71.6% (68 件)、次いで「買取価格が高い」が 58.9% (56 件)、「引取りのタイミングが適切である」が 55.8% (53 件) と続く。

図表 16 リユース業との連携時の選定基準（リース・レンタル業）（複数回答）



リユース業に求める要件について、「引渡後の管理・トレーサビリティの確保」との回答が最も多く 56.6% (77 件)、次いで「第三者による優良リユース業者の認証」が 48.5% (66 件)、「すぐに引取りに来てもらえるサービス提供」が 44.1% (60 件) と続く。

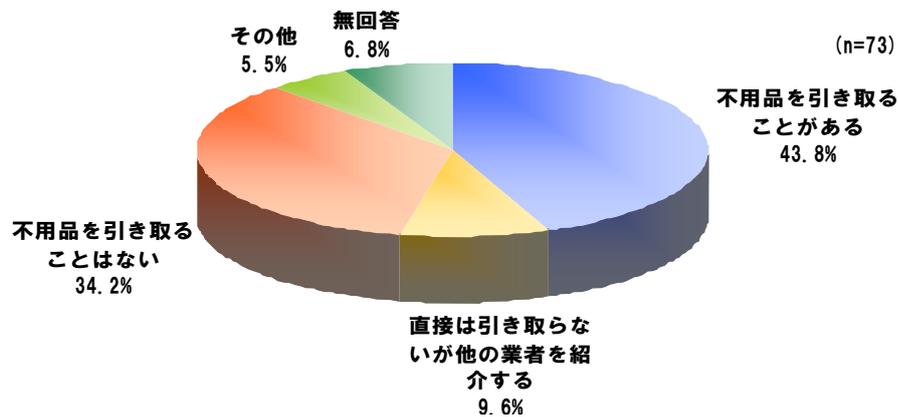
図表 17 リユース業に求める要件（リース・レンタル業）（複数回答）



(2) 引越業向けアンケート調査（結果概要）

引越時に発生する不用品について、「不用品を引き取ることがある」との回答が 43.8%（32 件）、「不用品を引き取ることはない」が 34.2%（25 件）、「直接は引取らないが他業者を紹介」が 9.6%（7 件）と続く。

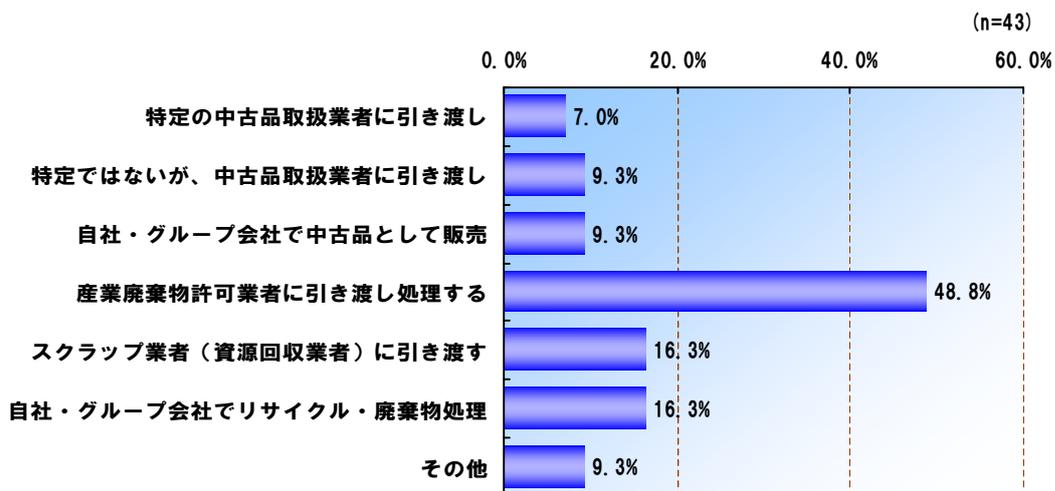
図表 18 不用品の引取状況（引越業）



引き取った不用品の処理・処分方法について、「廃棄物処理許可業者に引き渡し処理する」が最も多く 48.8%（21 件）、次いで「スクラップ業者に引き渡す」・「自社・グループ会社でリサイクル・廃棄物処理」がそれぞれ 16.3%（7 件）となっている。

特定・特定でないに関わらず、それぞれ 1 割弱がリユース業者に引渡しを行っている。

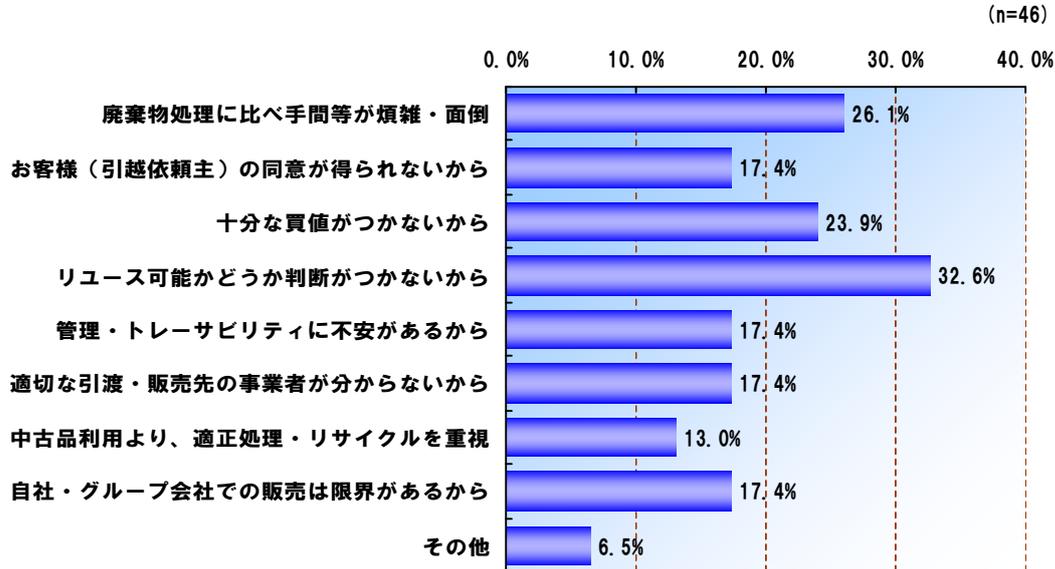
図表 19 不用品の引取後の処分状況（引越業）（複数回答）



※図表 18において「不用品を引き取ることはない」（25 件）、「無回答」（5 件）以外の結果

中古品として流通していない理由について、「リユース可能かどうか判断がつかない」との回答が最も多く 32.6% (15 件)、「廃棄物処理に比べて手間等が煩雑・面倒」26.1% (12 件)、「十分な買値がつかないから」23.9% (11 件) と続く。

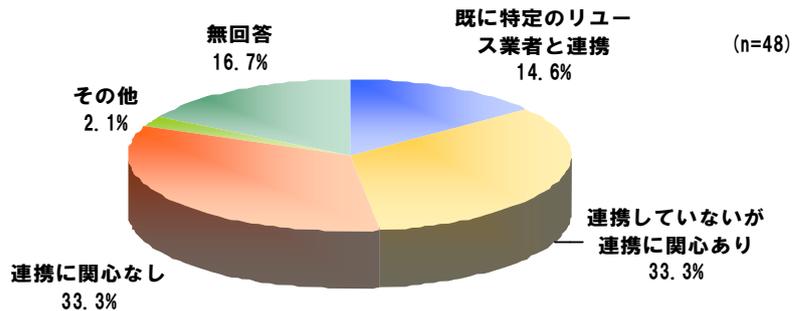
図表 20 中古品として流通していない理由について (引越業) (複数回答)



※現状、リサイクル・廃棄物として処理されている製品のうち、「まだ中古品利用できるものが存在する」との回答者 (46 件) への設問

不用品の有効活用のためリユース業と連携することについて、「連携していないが、連携に関心あり」、「連携に関心なし」がそれぞれ 33.3% (16 件)、「既に特定のリユース業と連携」との回答が 14.6% (7 件) となっている。

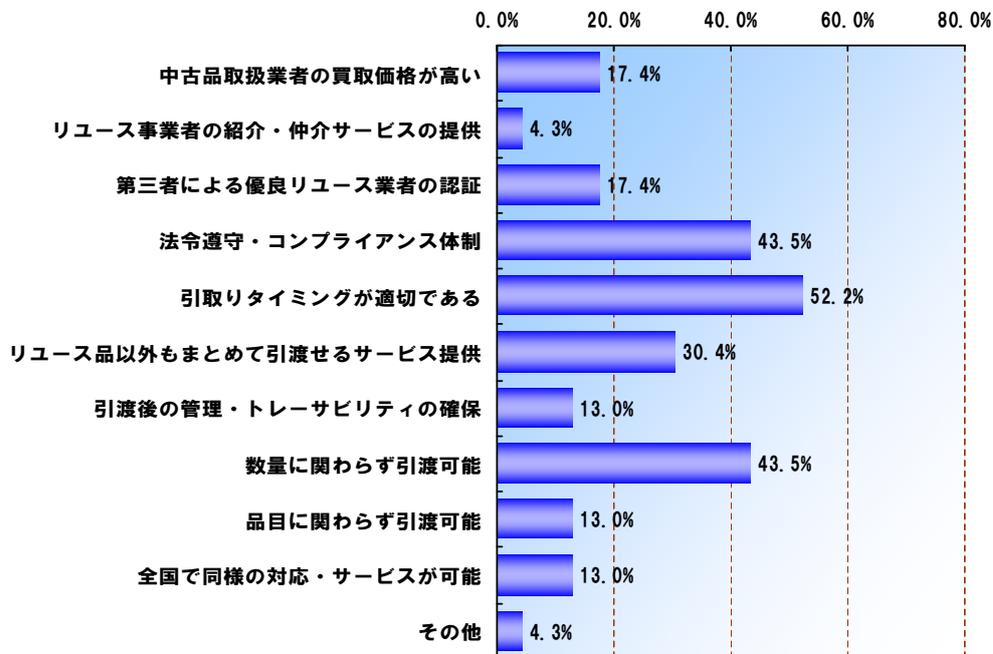
図表 21 リユース業との連携状況 (引越業)



※図表 18において「不用品を引き取ることはない」(25 件) との回答以外の結果

連携先の選定基準について、「引取りのタイミングが適切である」との回答が最も多く 52.2% (12 件)、「法令遵守・コンプライアンス体制」、「数量に関わらず引渡可能」がそれぞれ 43.5% (10 件) と続く。

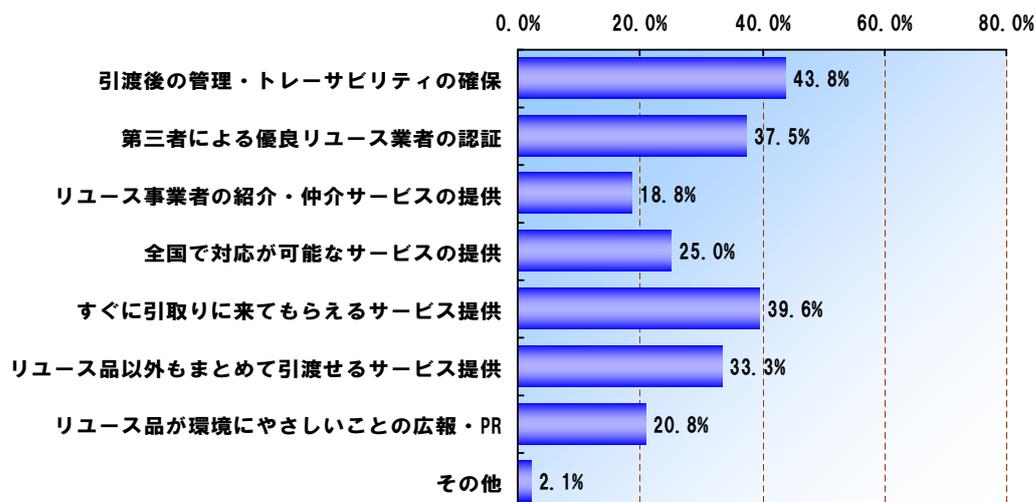
図表 22 リユース業との連携時の選定基準（引越業）（複数回答）
(n=23)



※図表 21において「既に連携している」「連携していないが、連携に関心あり」と回答者への設問

リユース業に求める要件について、「引渡後の管理・トレーサビリティの確保」との回答が最も多く 43.8% (21 件)、次いで「すぐに引取りに来てもらえるサービス提供」が 39.6% (19 件)、「第三者による優良リユース業者の認証」が 37.5% (18 件) と続く。

図表 23 リユース業に求める要件（引越業）（複数回答）
(n=48)

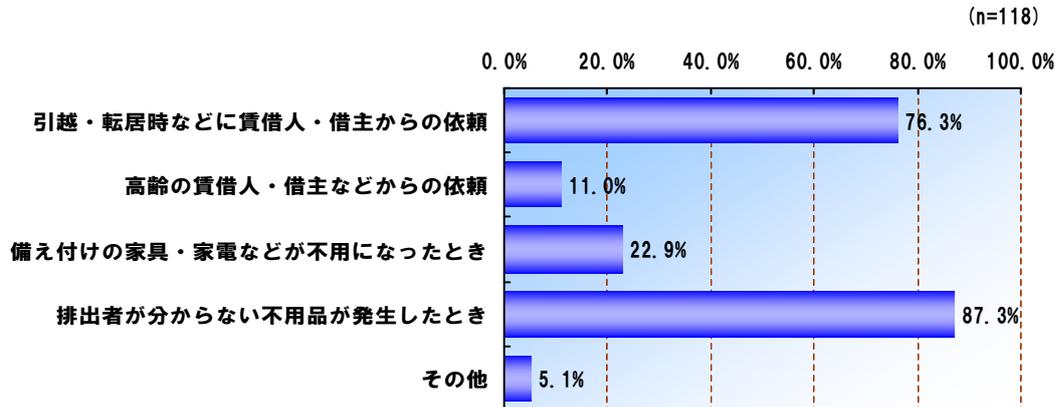


※図表 18において「不用品を引き取ることはない」(25 件) との回答以外の結果

(3) ビル管理業向けアンケート調査（結果概要）

ビル管理業にて、不用品を引き取る機会は、「排出者が分からない不用品が発生したとき」との回答が最も多く 87.3%（103 件）、次いで「引越・転居時などに賃借人・借主からの依頼」が 76.3%（90 件）と続く。

図表 24 不用品を引き取る機会（ビル管理業）（複数回答）

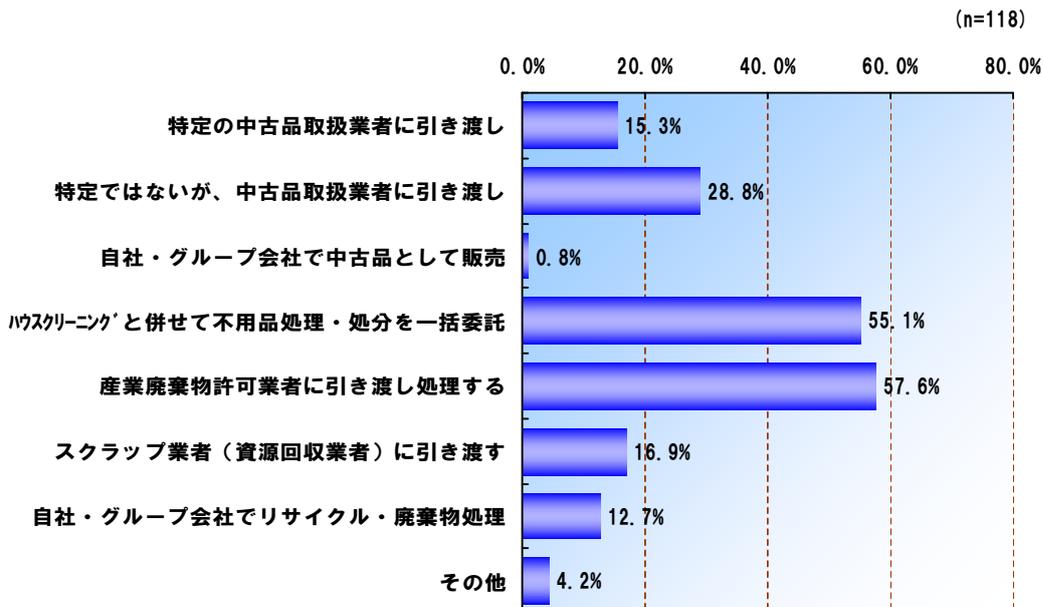


※「不用品の処理・処分を行うことはない」（26 件）との回答以外の結果

引取った不用品の処理・処分方法について、「廃棄物処理許可業者に引き渡し処理する」が最も多く 57.6%（68 件）、次いで「ハウスクリーニングと併せて不用品処理・処分を一括委託」が 55.1%（65 件）と続く。

特定でないリユース業者への引渡が約 29%、特定のリユース業者への引き渡しが約 15%となっている。

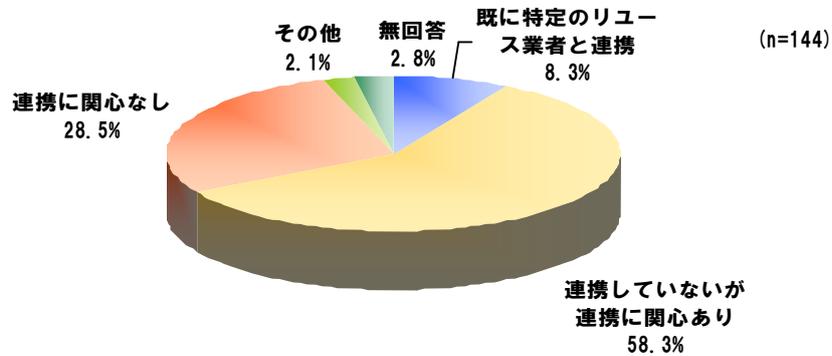
図表 25 不用品引取後の処分状況（ビル管理業）（複数回答）



※「不用品の処理・処分を行うことはない」（26 件）との回答以外の結果

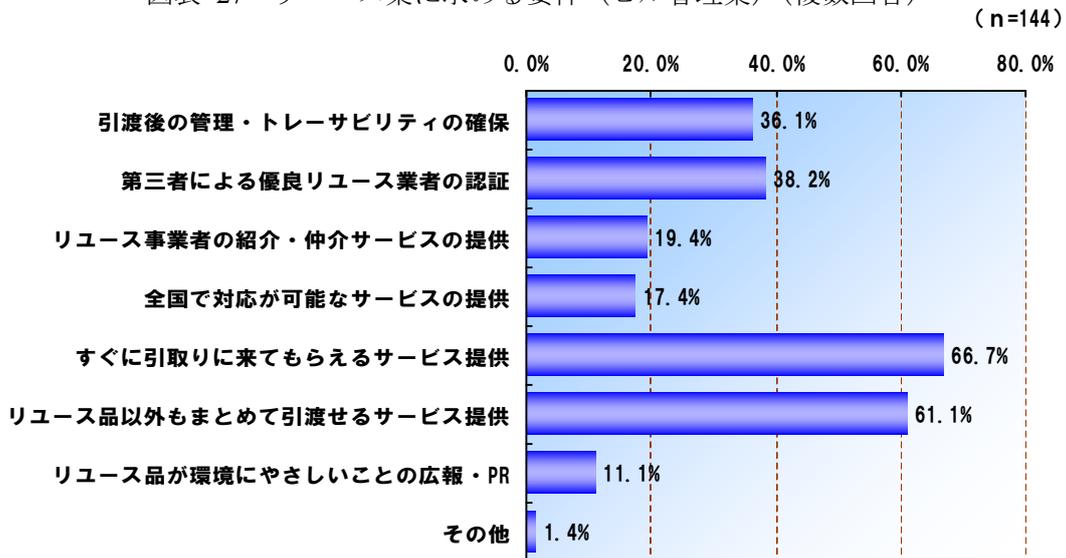
不用品の有効活用のためリユース業と連携することについて、「連携していないが、連携に関心あり」との回答が最も多く 58.3% (84 件)、「連携に関心なし」が 28.5% (41 件)、「既に特定のリユース業と連携」との回答が 8.3% (12 件) となっている。

図表 26 リユース業との連携状況 (ビル管理業)



リユース業に求める要件について、「すぐに引取りに来てもらえるサービス提供」との回答が最も多く 66.7% (96 件)、次いで「リユース品以外もまとめて引渡せるサービス提供」が 61.1% (88 件)、「第三者による優良リユース業者の認証」が 38.2% (55 件) と続く。

図表 27 リユース業に求める要件 (ビル管理業) (複数回答)



図表 28 大口排出事業者へのアンケート調査結果の概要（3業種の比較）

	リース・レンタル業 (n=138)	引越業 (n=73)	ビル管理業 (n=145)
不用品等の取扱状況	<ul style="list-style-type: none"> ・リースアップ品・レンタルバック品について ・処理・処分方法は「産業廃棄物許可業者に引渡し」(71%)、「顧客に払い下げる」(70%)。リユース品での流通は「(特定ではない) 中古品取扱業者へ」(44%)、「特定の中古品取扱業者へ」(41%)、「自社で中古品販売」(17%)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引越時に発生する不用品について ・「引き取ることがある」(44%)、「引き取ることはない」(34%)、「直接は引取らないが他業者を紹介」(10%)。 ・処理・処分方法は「廃棄物処理許可業者に引渡し」(49%)、「スクラップ業者」「自社で処理」がそれぞれ(16%)。 ・引取り・処理において多くは「有料で引取り」、「廃棄物処理許可業者に引渡し」 	<ul style="list-style-type: none"> ・不用品の処理・処分については、8割程度の回答者が実施。内容は「排出者が分からないもの」(87%)、「引越・転居時などに借借人から依頼」(76%)。 ・処理・処分方法は「廃棄物処理許可業者に引渡し」(58%)、「ハウスクリーニングと併せて処理・処分を一括委託」(55%)と続く。
不用品のリユース可能性	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、リサイクル・廃棄されているもののうち、中古品利用できるものがあるとの回答は約4割(品目によって若干傾向が異なる) ・リユースされない理由は「十分な値がつかないから」(62%)、「廃棄物処理に比べて手間・手続き等が煩雑・面倒だから」(40%)、「リユース可能か判断がつかないから」(32%)、「流通時の管理・トレーサビリティに不安があるから」(29%) 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、リサイクル・廃棄されているもののうち、中古品利用できるものがあるとの回答は約4割(品目によって若干傾向が異なる) ・リユースされない理由は「リユース可能か判断がつかない」(33%)、「廃棄物処理に比べて手間・手続き等が煩雑・面倒」(26%)、「十分な値がつかないから」(24%)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、リサイクル・廃棄されているもののうち、中古品利用できるものがあるとの回答は約4割。 ・これまで引き取ったことのある品目としては、家電(87%)、家具類(78%)
リユース業との連携状況・意向	<ul style="list-style-type: none"> ・「特定のリユース業と連携している」(43%)、「連携していないが、連携に関心がある」(27%)、「連携に関心はない」(25%) ・連携先の選定基準は「法令遵守・コンプライアンス体制」(72%)、「買取価格が高い」(59%)、「引取りのタイミング」(56%)。 ・連携に関心ない理由は、「現状の取組で十分」(56%)、「法令遵守・コンプライアンス体制に不安」(21%)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「連携していないが、連携に関心がある」、「連携に関心はない」がそれぞれ(33%)、「特定のリユース業と連携している」(15%)。 ・連携先の選定基準は「引取りのタイミング」(52%)、「法令遵守・コンプライアンス体制」・「数量に関わらず引取り」がそれぞれ(44%)。 ・連携に関心ない理由は、「現状の取組で十分」(69%)、「廃棄物処理業者はまとめて引き取ってもらえる」(44%)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「連携していないが、連携に関心がある」(58%)、「連携に関心はない」(29%)、「特定のリユース業と連携している」(8%) ・連携先の選定基準は「引取りのタイミング」(70%)、「リユース可能なもの以外もまとめて引取り」(62%)、「数量に関わらず引取り」(60%)。 ・連携に関心ない理由は、「現状の取組で十分」(39%)、「適切なリユース業者が分からない」(27%)、「廃棄物処理業者はまとめて引き取ってもらえる」(24%)。
リユース業に求める要件	<ul style="list-style-type: none"> ・「引渡した後の管理・トレーサビリティの確保」(57%)、「第三者による優良リユース業者であることの認証」(49%)、「すぐに引取りに来てもらえるサービス提供」(44%)と続く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「引渡した後の管理・トレーサビリティの確保」(44%)、「すぐに引取りに来てもらえるサービス提供」(40%)、「第三者による優良リユース業者であることの認証」(38%)と続く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「すぐに引取りに来てもらえるサービス提供」(67%)、「リユースが可能なもの以外もまとめて引取り」(61%)、「第三者による優良リユース業者であることの認証」(38%)と続く

3. リユース業界に求める要件

3.1 リユース業界団体での自主的取組の概要

リユース事業者の業界団体では、優良品業者への支援として、認証ガイドラインの策定、電子マニフェストシステムの構築、優良品業者認定制度などを自主的に進めている。

図表 29 各団体における優良品業者の支援策の概要（平成 21 年度の取組）

	JRCA (ジャパンリサイクルアソシエーション)	JRO (日本リユース機構)	JRAA (日本リユース業協会)
既存の取組	認証ガイドライン作成	電子マニフェストシステムの構築	優良品業者認定制度
推進体制	個別に会員事業者を回って説明、 認証事業者には店頭表示	参加は任意	
法令遵守	審査有り 遵守されない場合は取り消すことがある。	システム参加時に法令遵守体制を 面接審査、その後も随時チェック	ガバナンス等社内体制、法令違反・ 反社会勢力との関わり等、遵守体 制を審査
品質管理・保証	商品の点検と清掃、最低1週間以上 の保証		
トレーサビリティ	製造後10年以上経過した家電製品 について、仕入れ先及び販売先の 管理	量販店から仕入れた家電4品目につ いて電子マニフェストで管理 仕入れ元から売却(輸出含む)又は 処分までを個別に管理可能(た だし、売却先情報を除く)	社内体制としてのトレーサビリティ構 築状況をチェック
平成21年度の取組	・優良品業者へ店頭用のSR認証 マーク配布準備 ・SR認証マークの効果等の把握	・リユース電子マニフェスト研修会の 開催	・リユーステキスト(第1版)の作成 ・認定ステッカーの作成

出典) 環境省「平成 21 年度 電気電子機器等の流通・処理実態調査及びリユース促進事業」

3.2 利用者が求める要件

(1) 一般消費者アンケートより

1) 中古品の購入時

- 過去1年間に「リユースショップで中古品を購入」した人は 19.2%。「ネットオークションでの購入」が 17.3%と続く。「中古品を購入したことがない」のは 62.0%。
- リユースショップで中古品を購入した理由について、「立ち寄ったら欲しいものがあつたから」「中古品購入ならリユースショップ」「近くに店舗があつたから」「購入前に実物を見ることができるか」との回答が上位。
- リユースショップ以外で中古品を購入した人について、リユースショップで購入しなかつた理由としては、「近くに店舗がないから」、「価格が安いとは思わないから」「他のルートで欲しいものが入手できるから」といった回答が上位。

2) 不用品の売却・引渡時

- 過去1年間にリユースショップで不用品を売却・引渡した人は22.6%。ネットオークションでの売却・引渡しは11.5%と続く。不用品の売却・引渡し経験がないのは62.1%。
- リユースショップで不用品を売却・引渡した理由について、「金銭的な理由（お金が得られる、支払う費用が安い）」「煩雑な手続きや準備をしなくて済むから」「まだ使用する人がいれば有効に利用して欲しかったから」との回答が上位。
- リユースショップ以外で不用品の売却・引渡した人について、リユースショップに売却・引渡しをしなかった理由としては、「取引時の価格が適正かわからないから」、「店頭まで持ち込むのが面倒だから」「引き取ってもらえるか分からないから」といった回答が上位。

3) リユースショップに求める要件

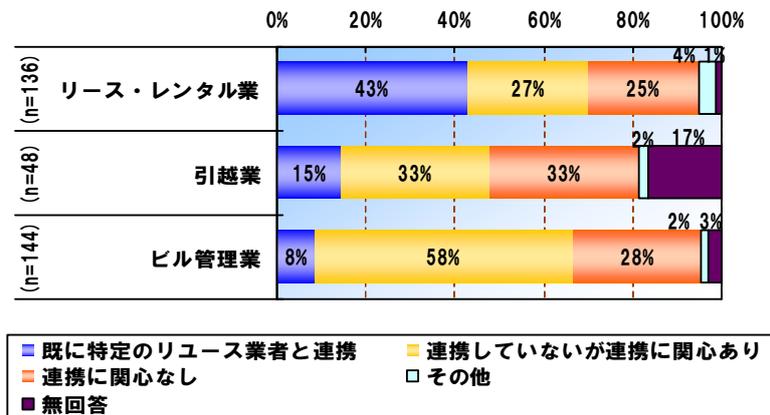
- リユースショップに求める要件について、「中古品の販売価格が安い」（69.2%）、「不用品・使用済製品の引取価格が高い」（51.4%）と、価格・費用に関する要望が最も高い。次いで、「購入した中古品に保証がついている」（45.2%）と続く。
- 最も重視する点についても同様の傾向であり、「中古の販売価格が安い」との回答が最も多く35.1%、次いで「不用品・使用済製品の引取価格が高い」（19.5%）、「購入した中古品に保証がついている」（13.8%）と続く。
- 価格に対する意見は、各企業単位での経営方針等に関わる内容と考えられる。一方で、売買時の価格以外には、第三者による優良事業者の認定（40%）、法令遵守・コンプライアンス体制（35%）、引取時のサービス（数量、品目、タイミング）、購入した製品への保証といった意見が挙げられている。最も重視する点としても、中古品への保証、第三者による優良事業者である認証、法令遵守・コンプライアンス体制といった回答もそれぞれ1割程度挙げられている。

(2) 大口排出者アンケートより

1) リユース業者との連携状況

- リユース業との連携状況について、リース・レンタル業は「既に特定のリユース業者と連携」との回答が43%と他と比較して高くなっている。
- また、ビル管理業では既に連携している事例は少ない（8%）が、「連携に関心あり」との回答が約6割を占めている。
- いずれの業種も「連携に関心はない」との回答は3割程度であった。

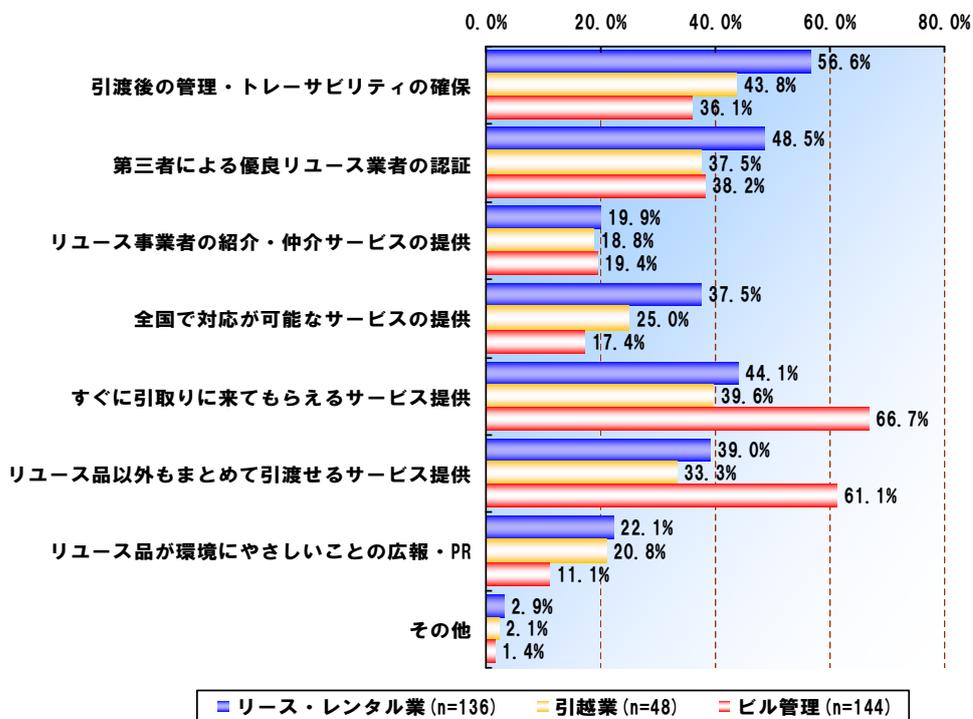
図表 30 リユース業との連携状況（大口排出者3アンケート結果）



2) リユース業界に求める要件

- 「第三者による優良リユース業者の認証」、「すぐに引取りに来てもらえるサービス」については各業種とも上位に挙げられている。
- リース・レンタル業は、「引渡後の管理・トレーサビリティの確保」、「第三者による優良リユース業者の認証」との回答が高い。
- また、ビル管理業では「すぐに引取りに来てもらえるサービス提供」、「リユース品以外もまとめて引渡せるサービス提供」の他業種と比較して多くなっている。

図表 31 リユース業に求める要件（大口排出者3アンケート結果）（複数回答）



(以上)